

●オオムラサキの成虫確認できる

産卵するオオムラサキを確認したのが4年前でそれ以降成虫を確認できていませんでした。台風によってコナラやクヌギの巨木が大変多く倒れ山が荒れました。それに従って冬の幼虫観察数も減少が見られ、生育条件が厳しくなって、とうとう幼虫の確認も昨年は3匹、一昨年はたった1匹という状況に至りました。昨年は7日間の連続観察、今年は大綱をエノキにかぶせて羽化したものをそのまま観察できることを狙い、試行を行いました。結局成虫に出会うことはなくて、来年に夢を託すことになりました。しかし金田さんはそう簡単にあきらめることはしないでトラップの網の補強や新たな改善に粘り強く取り組み、観察行動を繰り返していただきました。オオムラサキの最終産卵期が近づいているまさに最終盤にメスを捕獲網のトラップで確認されました。これで里山の会も胸をなでおろすことができました。

以下は金田さんからの寄稿です。

オオムラサキをバタフライトラップ（蝶を採る仕掛け）で確認

オオムラサキの成虫については農園では4年間姿が見えず確認できておりませんでした。桜谷先生の指導によるネムノキにかけていた仕掛けに7月28日にオオムラサキが入っているのが見つかりました。蝶は写真を撮った後、放蝶しました。トラップはむし社から購入したものが2個、100均の洗濯ネットを改造した手作りが5個合計7個設置しました。里山のシンボル、オオムラサキが生息していることが確認できて良かったです。これは樹液代替りの餌としてパイナップル・バナナ・カルピスに焼酎を少し混ぜたものを皿に入れ放置、臭いで虫が集まり餌の上に網があるので飛び上がっても逃げられない、蝶の習性を上手く利用した仕掛けかと思えます。蝶はこの他にタテハチョウ科クロコノマ、キタテハ、サトキマダラヒカゲ、蛾はアケビコノハ、ムクゲコノハ、コスズメ、シロスジトモエ、その他カブトムシ、カナブン等も入っておりました。

●8月4日に中聖牛の木材が入荷しました

4回目となる中聖牛の組立を里山の会の独自の力で組み立てようと一昨年から有田さんに組立て手順を記録いただき解説書の発行までできるように技術力を学んでいただきました、中聖牛の木材は黒松が最適だとお話を伺っています。山城各地で調達しようと検討しましたが、手に入れることができませんでした。松材の入手は非常に難しいことがわかりました。もちろん各地の森林組合にお訊ねしても無理との返答です。京都府で無理なら滋賀県森林組合でやっとカラマツなら用意できることになりました。森林組合さんのお話では、固まって生えているものではないので探し出すことも、運び出すことにもたいへんで、この辺りでは人手がかかる、そうした職人はもういないということでした。長野県の木材になりました。長さ7mものが最長で大型トラックそれもユニック付きの車になるので、ずいぶんと運送費が高かったです。材木が到着したので第1回目の組み立てを8月22日（土）の9時30分～12時30分で行います。お手伝いにお越しいただける皆様のご協力をお願いします。場所は井手町玉水橋東詰め木津川右岸の広場で行います。服装や持参物は 手袋 あればヘルメット ペンチ 金槌 作業服、作業靴をお願いします。午前中の作業と考えております。伝統的河川工法なので人力で行うため人手がかかります。是非お越しく下さい。

●短くなった夏休み 8月1日 親子で遊ぼう学ぼう魚とり 第一回目宇治市地域 50人が集合 14種類の魚捕獲

梅雨が明けて、夏休みとなった宇治市の皆さんを主に集まっていたいただきまして第一回の「親子で遊ぼう学ぼう魚とり」を54人の参加者行いました。コロナウイルスの感染防止のために当日の朝の体温と、現地受付でも検温を行って厳重対策をとって実行されました。中でも魚とりは密集を防止するため、グループに色分けして会場も分けて実施しました。梅雨明けだったので猛暑が予想されていましたが、朝のうちは曇りもあって、それほど暑さではなく少し安心出来ました。しかしまだ暑さに慣れていなくて体力が消耗されました。採取できた魚は14種で、水温が低く、砂や泥に住む魚が多かったようです。久しぶりに親子が力を合わせて楽しむ取り組みは、にぎやかに声が弾みました。里山の会の皆さんは事前の受付業務や会場周辺の草刈り、連絡や備品、用具の点検など大忙しの準備を行っていただきました。当日は8時過ぎには集合して会場設営、そして終了した後の後始末に頑張ってくださいました。河川レンジャーの皆さんにも力を合わせてご奮闘いただきました。

何とんでもこの取り組み最大の作業は案内チラシを乙訓を除く山城教育局管内の全小学校に配布することです。各市町村の教育委員会に学校毎の児童数に仕分けをして子どもたちへの配布です。約4万枚の仕分

け、チラシの折り畳みのために3日かかりました。そして配達にも2日かかりました。もちろん取り組み要綱作成には各関係機関との調整に時間がかかります。特にコロナ対策について戸惑いがあった例年とは違って随分時間がかかりました。例年以上に苦労を重ねてきましたので、当日の無事故での終了でほっと胸をなでおろすことになりました。しかし6日8日10日と相当数の参加申し込みがあり、あと3回は同じ取り組みを繰り返さなければなりません。参加者の皆さんにお手伝いの声を掛けてもなかなかご協力が得られる返事が返ってきませんでした。この取り組みを行っているNPOやましり里山の会のメンバーは70歳を超えた方々が中心になって、川ガキ養成に情熱を燃やしていただいているので、継続できているのです。この辺りをご理解いただきご協力をお願いしたいものです。

●親子で遊ぼう学ぼう魚とり ●第二回 8月6日 城陽市域の皆さん60人が参加予定 ●第三回 8月8日 八幡市と京田辺市域の皆さん50人が参加予定 (集合地 山城大橋西詰 橋下野球場駐車場)
●第四回 8月10日 親子で遊ぼう学ぼう魚とり 木津川市と旧相楽郡の皆さん55人が参加予定(集合は木津川市山城町北河原 24号線開き橋消防署南側)

●8月16日 京都府子どもの水辺発表交流会 カヌー体験も実施

会場木津川流域センター(国道24号線開き橋南方100メートル)

午前中は主に座学で皆さんの体験発表と自然観察、午後は屋外で体験学習を計画しています、現役の学生さんにご指導を依頼中です。ホームページをご覧ください。(ご参加の児童への交通費は支給いたします)

●中聖牛組立て会 8月22日(日)9時30分から12時終了 参加者募集 ご持参物 帽子(ヘルメット) 手袋 作業靴 水分を持参 JR奈良線玉水駅下車 西へ徒歩300m 玉水橋へ 24号線から100m 西へ 事前の参加申込者にはCDを無料で進呈送付します。 参加費無料で実施

●8月28日 2020年度第2回理事会開催 議題①前半の取組まとめと年度後半の事業計画について議論し 事業予算の検討 ②25周年記念について詳細を決定します。

●梅雨で九州災害や東北地方の災害で「流域治水」についての講演会 9月6日(日)午後13時 場所京田辺市社会福祉センター 講師・国交省近畿整備局淀川華扇事務所に依頼中

●竹蛇籠の製作開始 初日9月13日(日)以後毎週土日に開催 9時30分~12時30分 午後は自由参加フリーワーク 玉水橋東詰め下流の広場 参加費無料 参加申し込みいただいた方には蛇籠の製作用CDを無料で送付いたします。服装は 手袋 あればヘルメット 作業服 申し込み不要 当日現地受付 ボランティア一日保険加入 (なおCDのみを希望者には1500円の負担で送付いたします)

●京田辺市民文化祭2020年度の展示発表に参加を決定 展示物は①イタセンパラの取組 ②結成25周年記念の歴史 ③スローガン 里山の会のこれまでとこれからについて検討いたします。

●25周年記念誌のための原稿提供依頼 20人に依頼文を発送しました。昨年第2回理事会で記念誌の発行を決定しました。これまで里山の会の活動において縁のあった皆さんにご登壇いただきたくご寄稿をお願いいたしました。ご多忙のなかでしようがぜひご協力お願いいたします

●中聖牛設置の取組について竹門先生からいただいた説明文を掲載しています。ご理解いただき、ご協力をお願い致します

●19《一般研究4年目の目標の概要》

木津川15-6Kp 流程における7年間のモニタリングデータを分析することによって、竹蛇籠水制や中聖牛の設置が河床の生息場構造の多様化にどのように貢献できたかを明らかにすることを目標とする。また、木津川20Kp 地点のモニタリング結果と併せて分析することによって、木津川下流全域の中で伝統的河川工法の活用が期待できる地点を抽出することを目標とする。

将来予想される上流のダム群からの土砂還元下での伝統的河川工法の利用の在り方を分析する(図2参照)。また15=6Kp 付近の試験施工現場、20Kp 付近の施工現場のモニタリングも続け、6年後及び8年後と3年後の変化を分析する。最終年には、これまでの研究成果をまとめ、今後の木津川下流における伝統的 川工法の活用方針を確立することを目標とする。